

Title	編集後記
Sub Title	
Author	萩原, いずみ(Hagiwara, Izumi)
Publisher	慶應義塾大学工学部
Publication year	2019
Jtitle	新版 窮理図解 No.31 (2019. 10)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000031-0010

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

太田アートガーデン

残されていた米蔵に

新たな命を吹き込む

ホルヘ・アルマザン

かつて米の販売をしていた時代の家屋と米蔵が、太田市（群馬県）に残されていた。デザイナーのオーナーから、そこへ新たな命を吹き込んで、芸術を中心とした建物として再生したいと設計依頼が届いた。我々は、住宅2軒と倉庫2軒を改造し、芸術作品の展示と制作の両方ができる空間へと変身させることになった。

その敷地は東武伊勢崎線の蕪川駅^{にらわ}の目の前にある。多くの地方都市は、郊外化現象に苦しんでいるが、この近郊はそれほどひどくはない。しかし、郊外の大型ショッピングモールなどにより、駅周辺の商店街の空洞化が進み、わずかに残った店舗が散在している。土地は広く豊富にあるものの、そのほとんどが駐車場として使われている。駅前の景観は、無味乾燥なアスファルトの街へと急速に変化

しつつある。この過程を逆転させることができるだろうか？違う方法をコミュニティに示すことができるだろうか？

我々は、使用されていない一部の建物を取り壊し、緑の空間を設け、そこを「アートガーデン」とした。古い家屋のうち1軒はギャラリー、もう1軒の家屋はアーティストが泊まれる場所に、そして、米蔵は、制作空間として改装した。さらに、その土地を取り囲んでいたシャッターやコンクリートブロックの壁を取り除き、そのかわりに駅に面した場所に屋根付きのベンチを設置した。そのベンチに通行人が座ったり、会話を楽しんだり、アートガーデンを訪れる場所となった。アートガーデンは視覚的に楽しめるだけでなく、夏には40度にも達する日本でも有数の高温で知られる太田市の厳しい暑さを緩和する目的も持っている。アスファルトやコンクリートの表面は緑に置き換え、庇や屋根を設けることで、人々が夏でもアートガーデンを楽しむことができるような微小気候をつくりあげた。



さらに、我々は、再利用により、廃棄物を減らし新たな材料の使用を削減した。日本の木造モジュールを活かして、木の板や取り除いた構造部材、建具を再利用することができた。また、米蔵で使われていたパレットは、フェンスやガーデンデッキとして、古い屋根瓦、コンクリートブロック、石などは、舗装材として再利用した。

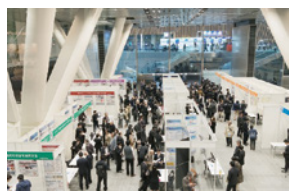
エアコンの効いた車内からショッピングセンターへと移動する人々の行動は、日本の地方の屋外空間をますますさびれたものにしていく。太田アートガーデンは、古い伝統的な建造物が新しいものと共存し、緑の都市の微小気候が人々に出会いや芸術との触れ合いの機会を与える、といった新しい未来のビジョンを提供している。

理工学 Information

KEIO TECHNO-MALL 2019 第20回 慶應科学技術展 「beyond imagination ~ススム未来へ」

KEIO TECHNO-MALL（慶應科学技術展）は、慶應義塾大学理工学部・理工学研究科の研究成果を広く発信し、共同研究や技術移転など、産官学連携のきっかけとなる出会いの場を提供するイベントです。

日時：2019年12月13日（金）10:00～18:00
 場所：東京国際フォーラム地下2階（ホールE2）
 内容：実物・実演重視の展示と魅力的な企画を予定
 入場無料 ※事前登録不要
 詳細：www.kll.keio.ac.jp/ktm/



〈シンポジウムセッション、特別講演（予定）〉

1 シンポジウムセッションⅠ

大熊将人氏（株式会社デジタルガレージ取締役、DG Lab 最高執行責任者（COO）、株式会社Crypto Garage 代表取締役）、他

2 シンポジウムセッションⅡ

伊藤公平（物理情報工学科 教授）

3 シンポジウムセッションⅢ

安井正人（医学部 教授）、他

4 特別講演

古川俊治氏（博士（医学）、弁護士、参議院議員、慶應義塾大学法科大学院教授、TMI総合法律事務所）



新版 窮理図解



No.31 2019 October

編集 新版窮理図解編集委員会
 写真 邑口京一郎
 デザイン 八十島博明、石川幸彦（GRID）
 編集協力 サイテック・コミュニケーションズ
 発行者 岡田英史
 発行 慶應義塾大学理工学部
 〒223-8522 横浜市港北区日吉3-14-1
 問い合わせ先（新版窮理図解全般）
 kyurizukai@info.keio.ac.jp
 問い合わせ先（産学連携）
 kll-liaison@adst.keio.ac.jp

web版
<https://www.st.keio.ac.jp/education/kyurizukai/>
 facebook
<https://www.facebook.com/keiokyuri>

編集後記

海外で生まれ育ち、日本に10年ほど住んでいるアルマザン准教授。今回はそんな准教授ならではの視点から見た日本の印象が知りたくて、「ON 時間 OFF 時間」で紹介させていただきましたが、いかがでしたでしょうか。住み慣れているとまったく意識していない景色や建物にも、日本の良さがあることに気づかされた人もいないかと思います。

（萩原いずみ）